

# 施設訪問

## 医療法人沖繩徳洲会 湘南鎌倉総合病院

「生命だけは平等だ」——年中無休、24時間オープン、  
救急患者は決して断らない

取材協力 ● 医療法人沖繩徳洲会湘南鎌倉総合病院  
取材・文 ● 編集部 撮影 ● 関朝之

▲病院全景の航空写真（写真提供：湘南鎌倉総合病院）病院の屋上にはヘリポートを備え、空陸からいつでも救急の患者さんを受け入れる態勢が整っている。

◀院内の壁に貼られているカレンダー。



病院全景（写真提供：湘南鎌倉総合病院）

日本最大の医療グループである「医療法人徳洲会」——。グループを統括する総本部は東京都千代田区麹町4丁目にある。日本国内に66カ所、ブルガリアには1016床の病院をオープン。さらに、イギリス、ロシア、アメリカ、アジア、南米へと病院網を拡げようとしている。

この巨大グループを率いるのは、総帥・徳田虎雄理事長である。幼い弟を医者から診てもらえず死別するという経験から医師を志し、苦学の末大阪大学医学部に合格。卒業後、公立病院に勤務してのち1973年1月、大阪府松原市に徳田病院を開設した。現在の松原徳洲会病院であり、その後、各地域住民の要望に応じて次々と総合病院を建設していった。「年中無休、24時間オープン、救急患者は決して断らない」——。そして、「生命だけは平等だ」というのが医師・徳田虎雄の病院設立時の理念である。その哲学はグループの



# トモセラピーとは

Computed Tomography  
CT装置



TomoTherapy



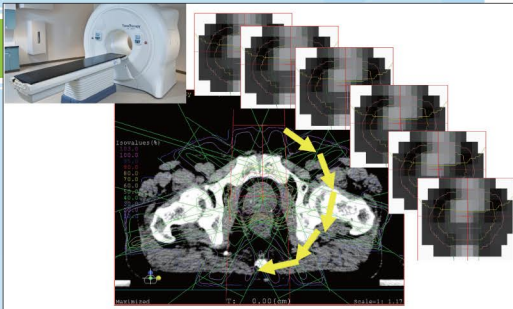
リニアック (放射線治療装置)

▲放射線治療室に設置された最新鋭の放射線治療装置「トモセラピー」。国内では17台目、神奈川県では初めての導入であった。ピンポイントでがんを狙い、身体にやさしい治療が可能である。

◀放射線治療室。大村素子医師、松井謙吾医師、向井佑希医師という3人の医師とスタッフによって治療は行われる。写真(下)は大村素子部長。

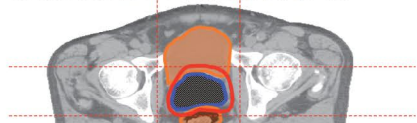


■トモセラピーでは、強度変調放射線治療(Intensity Modulated Radiation Therapy:IMRT)という技術を使うことで、がんの形に合わせて放射線を照射することができる。これによりがんへの照射線量を局所的に高めつつ、がんの周りにある正常な細胞の線量を少なくし、副作用を軽減することができる。また治療直前にCTをとり病巣の位置を確認、正しい位置に修正して照射することができる(画像誘導放射線治療Image-guided radiotherapy:IGRT)。写真(左)はモニター画像を見ながら位置決めをしているところ。



トモセラピーでは放射線の強さを少しずつ変えながら全方向から照射する

IMRTとIGRTの組み合わせ



IMRTによって照射範囲を必要最小限にする

小さくした照射範囲をIGRTで合わせこむ

正常組織の被曝を減少させることができる



医師・職員に受け継がれ、巨大グループを支える礎となっている。  
ピンポイントでがんを狙い撃ち「トモセラピー」で身体にやさしいがん治療

今回の訪問先である湘南鎌倉総合病院は、神奈川県鎌倉市岡本にある。JR大船駅東口のバスターミナルから、同病院の患者さんを送迎するシャトルバスに乗ること約10分。新築間もない同病院は屋上にヘリポートを備え、空陸からいつでも救急の患者さんを受け入れることができるよう態勢を整えている。医師だけで約180人、職員数約1500人。院長を務めるのは整形外科を専門とする塩野正喜医師である。がん治療専門の機器としては、トモセラピー(TomoTherapy)などを備えている。さらに鎌倉市山崎の旧病院跡地には、がん治療専門のオンコロジーセンターの建設を予定しており、「陽子線治療装置を2台導入することになっている」(塩野院長)という。

トモセラピーの機器が設置されている放射線治療室を訪ねてみる。治療室で指揮を取っているのは放射線腫瘍科部長・大村素子医師である。横浜市立大学附属病院から、2011年4月に同病院に着任し、放射線治療を任せられることとなった。現在、放射線腫瘍科には大村部長のほか放射線腫瘍医2名(松井謙吾医師、向井佑希医師)、医学物理士2名、診療放射線技師3名、専任看護師1名、クラーク1名といったスタッフがフル稼働で治療にあたっている。

トモセラピーとは、簡単に言えば、CTと現在放射線治療で主流になって



## 施設訪問



### 巨大病院の挑戦

「本宅だけは事だ」

「いのちある限り」

「徳田理事長のドキュメンタリー番組を録画したDVD。パンフレットなどとともに、自由に持ち帰ることができる。」

「『本宅だけは事だ』  
「いのちある限り」  
「徳田理事長のドキュメンタリー番組を録画したDVD。パンフレットなどとともに、自由に持ち帰ることができる。」

2011年4月24日、BS11で放映された徳田理事長のドキュメンタリー番組を録画したDVD。パンフレットなどとともに、自由に持ち帰ることができる。



院内のロビー。4階まで吹き抜けの空間が広がる。植栽をほどこし癒しの空間にこだわった。



▲総勢180名の医師が在籍している。



正面玄関を入ってすぐのところにある総合案内。

入院患者さんのための特別個室と一般個室（写真左）。（写真提供：湘南鎌倉総合病院）



広々とした院内の通路。震災などにより被災した地域住民を受け入れるために設計された。1000人を収容することができるという。地上15階、地下1階の建物は免震構造をもって設計されているという。ちなみに昨年（2011年）3月の東日本大震災に際しては、徳洲会グループの医師たちは「徳洲会災害医療協力隊」（TMA T）を組織し、逸早く被災地へ駆けつけ医療支援を行っている。



いるリニアックを組み合わせた装置のこと。一般に使われているリニアックに比べ、トモセラピーが優れている点はどこにあるのか。

大村部長は次のように言う。

「患者さんにやさしい治療で、副作用が圧倒的に少ないですね。特に前立腺がんの場合は副作用を大幅に軽減できます。たとえば脊髄とかは人間にとって非常に大切な臓器です。肺がんや食道がんなど、脊髄周辺にある病巣を治療する場合、今までの治療法では、脊髄を避ける方向から放射線を当てていました。そのために腫瘍にきちんと放射線が当たらないという場合もありました。それがトモセラピーでは、当てたくない臓器を避けつつ、治療する病巣に放射線をきちんと当てることができるようになりました。」

また今までの治療法では、実際の治療をするときに患者さんの体がずれて、放射線が正しい位置に当たらないことがありました。それを、トモセラピーではミリ単位で患者さんの位置を修正して放射線を正確に照射することができます。このような点が、この治療法のいちばん大きな特徴ですね」

複数の腫瘍にも、1回の照射で治療が可能であることも、トモセラピーの大きな特徴である。

同病院では2010年10月からトモセラピーによる治療を開始し、昨年4月から1年間に305例の治療を行ってきた。治療の対象となった主ながんは前立腺がんや乳がん、肺がんなど。前立腺がんは昨年57例を治療し「確かな手ごたえを感じている」と大村部長は言う。